



市民参加の運営技術(経験とその評価)

公園再生への市民参加

愛媛県松山市

石手川緑地再生に伴うワークショップ開催

(みんなのまつやま夢工房)

有限会社 鳳英設計 武智 英明

事例紹介

1. 事業の内容

- (1)計画の位置
- (2)対象とした緑地
- (3)利用上の課題

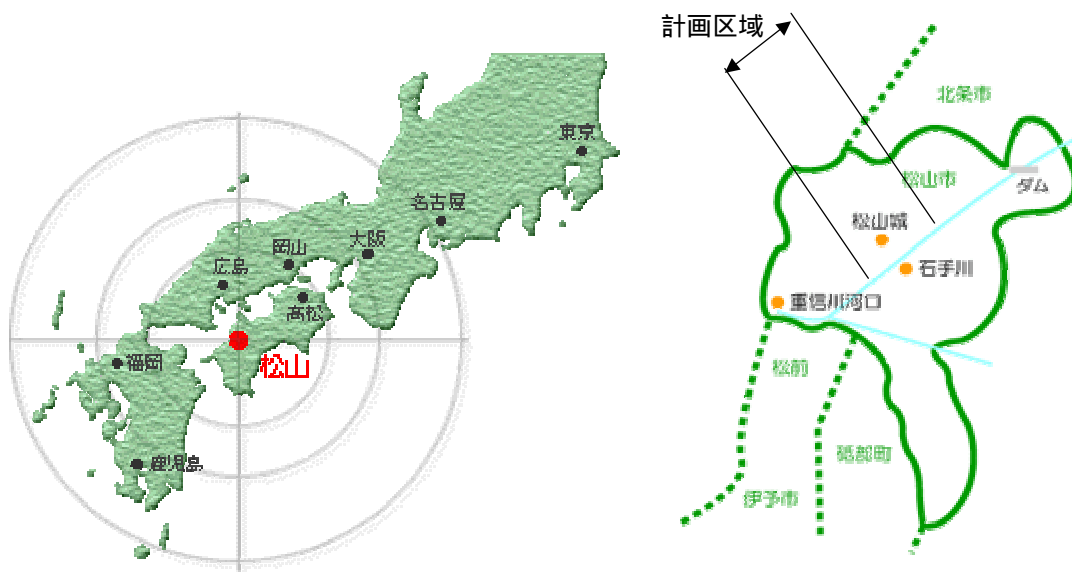
2. ワークショップ

- (1)ワークショップの開催経緯
- (2)参加者
- (3)参加経緯と立場
- (3)グラフィックデザイナー、イラストレーターとの連携

3. 今後の課題

1. 事業の内容

(1) 計画の位置



(2) 対象とした緑地



2004.12.17. fri 撮影



2004.12.17.fri撮影



2004.12.17.fri撮影

(3)利用上の課題

弱者への配慮に欠ける。

- ・トイレ、水飲み、エントランスなどが、バリアフリー化されていない。



維持管理が行き届いていない。

- ・トイレ、ベンチ、サイン(案内板)が破損している。



2 . ワークショップ

(1)ワークショップの開催経緯

平成14年6月から1月までに、8回の全体研究会と班会を随時、青少年センターで開催。

7月14日に、石手川緑地において現地調査を行う。

10月2日に『中間報告会』を開催し、短期的に取り組めると思われる提案を担当課へ向け報告。

研究会までの意見をまとめ、2月23日に開催する報告会で市長に提案(市長トーク)。

(1)ワークショップ立ち上げの経緯

夢工房とは……。

「まつやまの夢づくり編」と「地域の夢づくり編」があり、
まちづくりに関心を持つ市民が集い、
行政職員と協働で約1年間にわたって学習や調査、話し合いを行い、
自らの考えをまとめ、市長に提言を行う
ワークショップ(共同研究活動)事業。



(2)参加者

公募 ボランティア活動家、エコライフ推進委員、会社員、
(8名) 自営業、老人クラブ会長、主婦

推薦 松山市公園管理協力連絡協議会委員、大学生、
(11名) 身体障害者協会事務局長

計19名 3班で構成



参加者

(3) 参加経緯と立場

- ・平成14年度事業として、6月にスタート。
- ・現地視察会、各班の研究会、班長・副班長会等の開催。
- ・予定スケジュールの約60%が完了した時点で、『絵（図面）』が全く進まないことに気付く。
- ・参加者の意見を聞いて、
中立・公平な立場で、『夢を絵にする。』作業を進める。



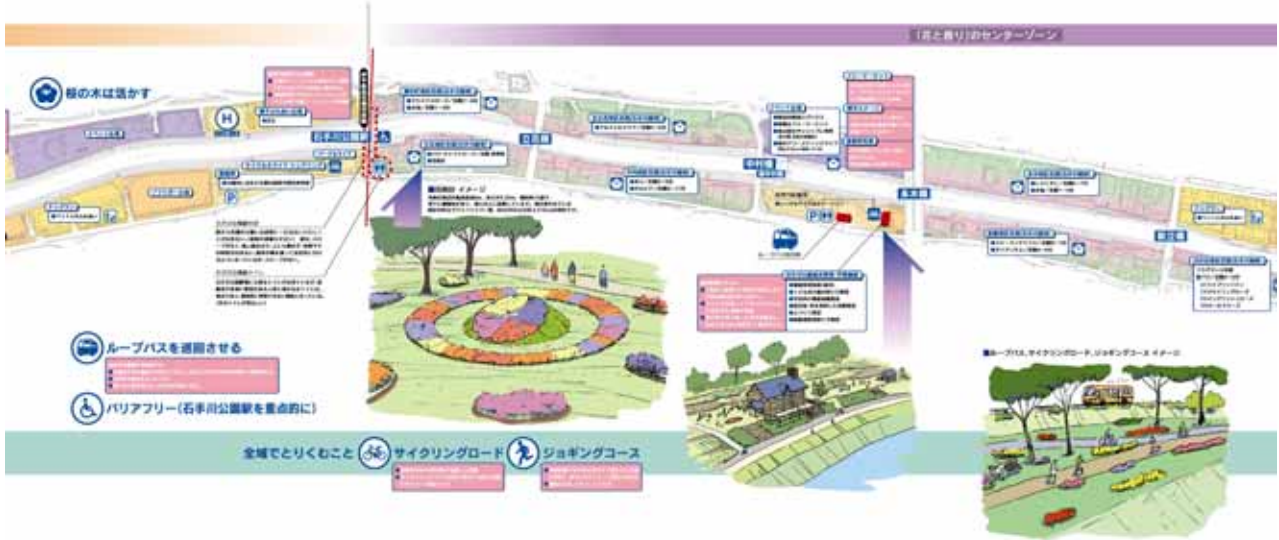
(例) 市民から出された計画図

(3) グラフィックデザイナーとの連携

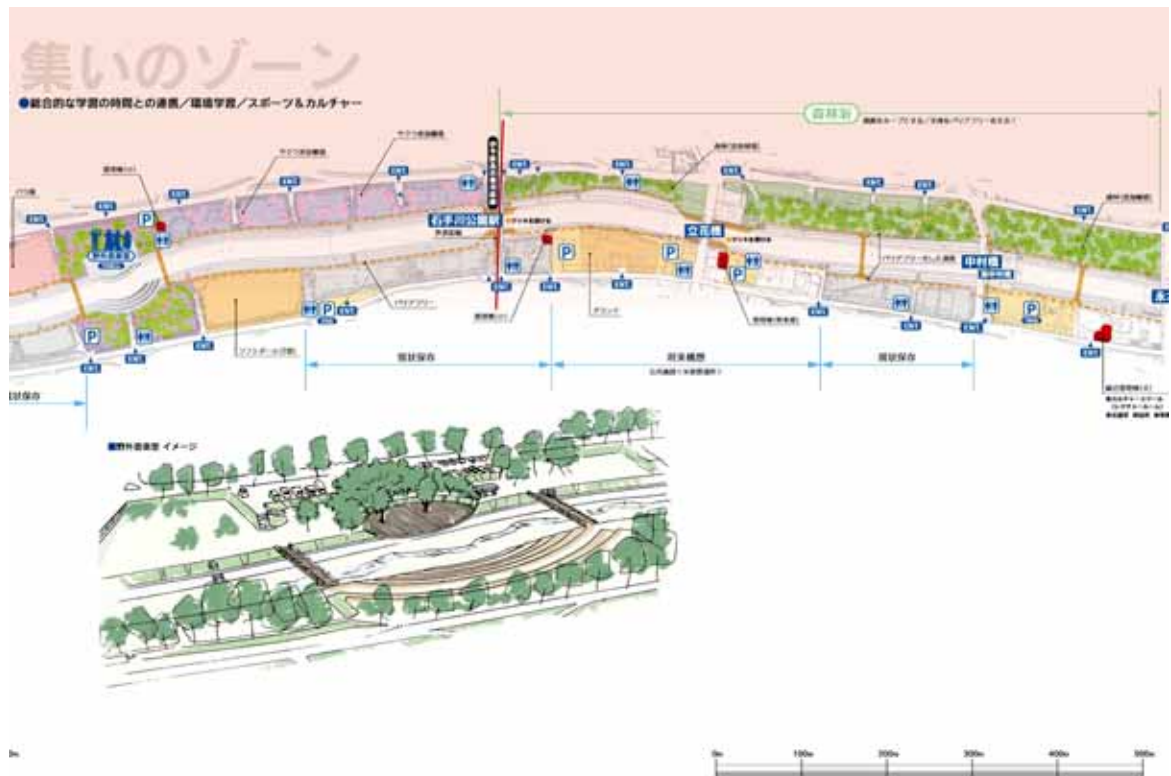
『グラフィックやピクトサイン』を用いたわかりやすい表現

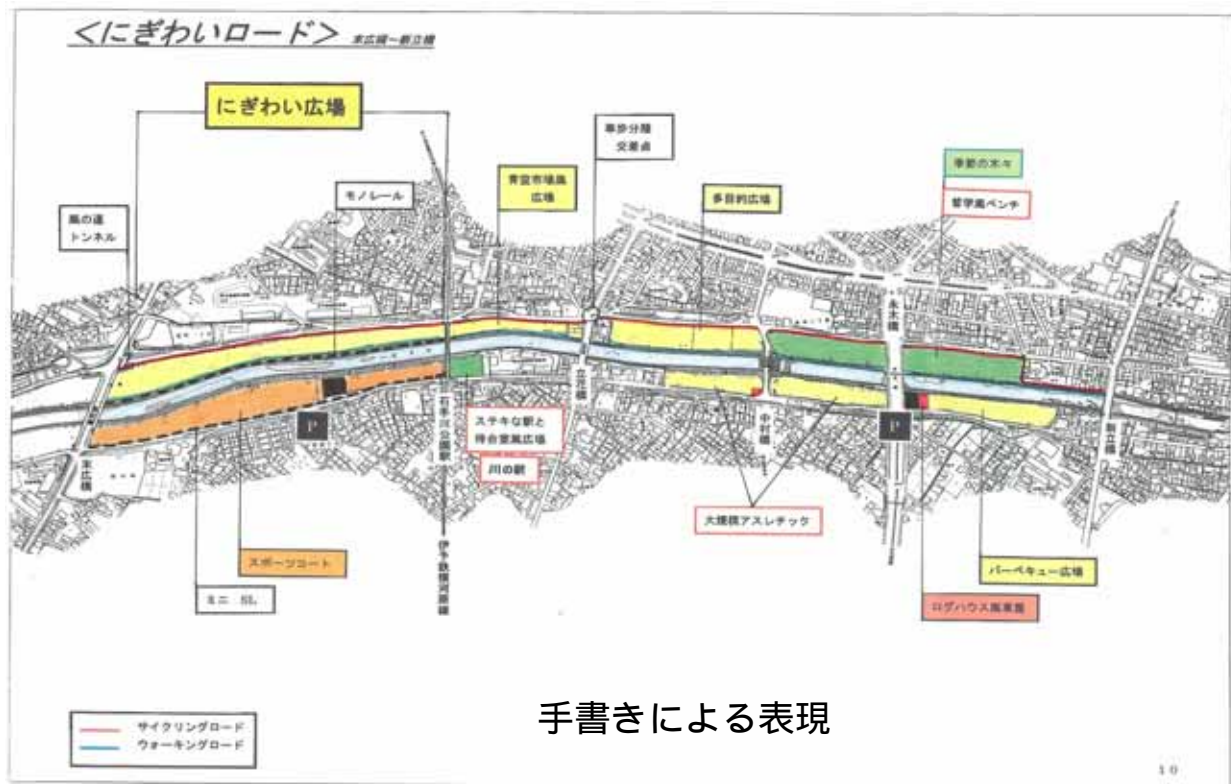


市民、グラフィックデザイナー、イラストレーターとの連携



パス、コメント、ピクトサインを用いたわかりやすい表現





市長トーク（提言案の発表）



市長あいさつ



WS参加者

報道



発表状況



3. 今後の課題

政策提言する際の市民が参加するWSにおいて、どの程度のグレードの図面、報告書を求めるのか？



この程度のプランがほとんど。



専門家が入るとこうなる。

専門家の助言はどの程度許容されるべきか？



- ・ブレイン・ストーミング法の妨げにはならないか？
 - 人の意見を批判しない。
 - 自由に意見を述べる。
 - 多くのアイデアを出す。
 - 他人の意見をヒントにしてさらに考えを発展させる。

ワークショップに関する評価基準は必要か？

- ・参加市民の満足度や意見・アイデアの数？
- ・（延べ）参加者数？
- ・参加者の職種

今後、客観的な評価基準の必要性が問われる。



以上